



# こくろうよなご

第10号

2025年1月25日

発行責任者 倉下文明

編集 教宣部

つくろう職場に労働運動を！ ひろげよう闘いを 職場に、地域に、全国に！



## 物価高で家計は火の車！！

### 団結旗開きで奮闘を誓う！

1月7日、地方本部事務所にて「2025年新春団結旗開き」を開催しました。政党をはじめ多くの来賓の皆様と共に、2025年が働く者にとつて、より良い職場・社会となるよう全力で奮闘していく決意を固め合ってきました。

団結旗開きは、吾郷 われていた。労働組合書記長の司会で始まり、もない職場という事だ地方本部を代表して倉下委員長より「年明けに聞いた話だが、ある職場で労働環境を不服として集団で離職をされることがあったと言

げ運動にして行く事が労働組合の使命だと感じた。また、本日の料理の買い出しに行くと大根一本が398円で驚いた。家計を預かる人は、本当に切実だと感じた。年が明けると25春闘も始まる。物価高に負けない賃上げを目指して、職場・地域の仲間と全力で奮闘しよう。昨年に引き続き、今年も選挙が目白押しだ。4月の出雲市議選では『三島よしのり』氏を、伯耆町議選では『大森英一』氏、そして7月の参議院選挙では、私鉄労組出身の『もりやたかし』氏の推薦を決定している。各候補の当選に向け取り組みの強化をお願いする。今年も、組織の再編も行う。組織が縮小していく事は寂しいが、現実を見据えてより活動しやすい体制にして行く決意だ」と挨拶を受け、続いて来賓の皆様より心温まる激励を頂きました。

上がり、ラストは全員で「国鉄労働組合の歌」を合唱しました。その後、鳥取県支部 山田委員長・島根県支部 藤江委員長より力強い決意表明を受け、最後に倉下委員長の音頭で「団結頑張り」を三唱し散会しました。

## 救命ボートないまま航行！

「新春団結旗開き」に先立ち、恒例の「新春学習会」を開催してきました。昨年12月7日、「島根原発2号機」が再稼働するという状況の中、「島根原発2号機運転差止仮処分」の申立人でもある「後藤 譲」氏から、仮処分裁判から見えた「原子カムラ」の現状などについて講演を頂きました。

「島根原発2号機運転差止仮処分」とは、2023年3月に、島根県と鳥取県の住民4人が広島高等裁判所松江支部に、島根原発2号機の運転差止めを求めて申し立てを行いました。その後、2024年5月には、仮処分の申立てを退ける決定がされています。講演では、仮処分裁判で争点になったいくつかの点について、お話がありました。

その一つは、地震の大きさについて、非常に低く想定をされているという事です。例えば、震源となる宍道断層の長さも、建設当時は「存在しない」とさ

### 御来賓の皆様

- 立憲民主党鳥取県連合 湯原 俊二 様
- 立憲民主党島根県連合 亀井亜紀子氏秘書 桑本 耕平 様
- こくみんCOOP共済 久保 敦 様

- 中国労金米子支店 西山 恵子 様
- 高橋弁護士事務所 高橋 敬幸 様
- 鉄道退職者の会 国尾 順一 様
- 国労議員団 植田 好雄 様
- 国労西日本本部 波見 健一 様



れ、その後、「8キロ」に訂正され、現在は「32キロ」となっており、「成長する活断層」などと揶揄されているようです。

二つには、三瓶山の噴火による降灰の想定についても過小評価がされているようです。現に原発周辺には、100cmの降灰のある地層があるにも関わらず、中国電力側の噴火規模の想定は50cmでしかありません。

想定以上の降灰が有れば冷却機能が喪失し、フクシマ原発事故の二の舞になりかねません。

三つ目には、島根原発は全国で唯一県庁所在地にあり、10キロ

圏内には島根県・松江市の中枢施設があり、30キロ圏内に45万人が暮らしており、いざという時の避難には、相当な困難が生じるこ

とが想定されています。故に「救命ボートを備えていない船舶の航行を認めるようなもの」と言われています。

最後に、今回の裁判所の不当な判決の背景について、「政権が意図的に作り上げてきた『新安全神話』があり、原発の利権に群がる『原子カムラ』がある」と言われ、引き続き「反原発」に取り組む決意が述べられ、講演を締めくくられました。